

令和6年度 飯塚市立庄内中学校 学力向上プラン

■視点1-②

《中期目標》未来に向け、明確なビジョンをもち、その実現に向けて協働的に課題解決する生徒の育成

〈成果指標〉令和8年度の全国学力学習状況調査：国語・数学標準化得点100以上

《短期目標》基礎的な知識や技能を習得し、活用し、仲間と共に学び合い、課題を解決する生徒の育成

〈成果指標〉令和6年度全国学力・学習状況調査【中3】において、(県標準化得点(県比)国語100 数学100 以上)、(四分位層C・D層の割合の合計(県比) 国語-3.0 数学+5.0 以下)

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

〈取組(指標)〉

- ①②保護者へ中間・期末考査や実力テストの日程を知らせる。
- ①②③希望者による学習会の実施(第二・四土曜日:1.5時間)
- ②各学年の課題となる教科において、週末課題を実施する。

〈成果(指標)〉

- ◆質問紙調査の結果
- ①自分で計画を立てた学習(目標値:全国比±0%)
- ②家庭での学習習慣の定着(1時間未満 目標値:全国比-10%)

■視点2

【授業づくり】

〔「学習の意義」を実感させる学習指導の実現〕

〈取組(指標)〉

- ⑤単元シートとルーブリックを用いて、単元全体の繋がりと授業のゴール像を意識させ、学習内容の再認識を行うことで学びを引き出す力を高めていく。
- ⑥各教科の見方・考え方を意識した教材研究を徹底し、資料や課題を通して考えを表現するための活動を授業展開において設定する。
- ⑤全教科でキャリア教育と連動した学習課題を取り入れる。その際他者の意見を取り入れ、自らを振り返ることで知識を広げていく活動を行う。(協調学習等)
- ⑤各教科の授業において、物事の本質を深く追求する問を設定し、根拠をもとにした課題解決や表現活動について粘り強く取り組む態度を養う。

〈成果(指標)〉

- ◆学習アンケート「その学習が生活に役立っていると思いますか」(目標値:全教科85%以上)
- ◆学習アンケート「毎授業の最後で何を学んだかが分かりましたか」(目標値:全教科80%以上)

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

〈取組(指標)〉

- ④⑤学習環境を整える。(黒板・机・窓)
- ④⑤全教科、身近な事象を用いた活用問題に日常的に取り組み、思考力・判断力・表現力を問う活用問題を定期考査で出題する。
- ④学年を超え、全職員で少人数学習を実施。
- ⑤⑦⑧小中合同研修会を実施し、学力向上に向けての取り組みの交流を図る。(年5回)
- ⑤キャリア教育と各教科の繋がりをもたせる学習について研修及び自己研鑽に励む。
- ③④⑤⑥⑦学習アンケート及び授業チェックリストを用いた授業改善の研修を年に2回実施する。

〈成果(指標)〉

- ◆教員アンケート「生徒達は習得した知識や技能を活用し、仲間と共に学び合い、課題を解決しているか」(目標値3.5以上/4段階評価)

■視点3

【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉

- ①②家庭学習(自主学習ノート、単元シートとルーブリックをもとにした予習・復習/授業と家庭学習をつなげる取組:月～金で実施)
- ③④⑤⑥⑦補充学習(全校対象:習熟度別の特設授業(試験前)、学年の課題に特化した学習(毎週木曜日))

〈成果(指標)〉

- ◆全国調査記述 無回答率(目標値:数学 8%未満,国語 5%未満)
- ◆授業チェックリスト(「課題に粘り強く取り組む」3.0以上:4段階評価尺度)

■視点1-①

県学力調査、全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」

授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

四分位層の県との差、標準化得点	国語					算数・数学				
	A層	B層	C層	D層	標準化得点	A層	B層	C層	D層	標準化得点
R5県調査	+0.1	+5.6	-3.5	-2.5	103.8	-0.3	+8.5	-4.5	-3.7	106.6
R6全国調査										

課題
 ・言葉の意味を正確に理解し、筋道をたてて的確に自分の考えを表現させるために、対話を通して協働的に学ぶとともに主体的に学習する場面の設定を工夫・改善する。
 ・主体的に教科の学習に取り組む態度を育成するために、学習の意義や見通しをもたせた上で自らの学びを評価・改善できる取組を行う。

質問紙調査等
 ・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか(全国比 +12.3%)
 ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできている(全国比 +4.0%)
 ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか(全国比 +6.4%)

- ①家庭学習の質の低下。(計画的な学習:全国-7.2%)
- ②家庭学習:土日1時間未満の割合が、全国±0%。
- ③基礎的・基本的な内容の定着に向けた授業づくりや学ぶ喜びを実感させる取組が不十分である。
- ④非認知的能力の育成に向け、協働的な学習指導方法の工夫や活用問題などの指導方法の検討が不十分である。
- ⑤生徒一人一人が学習の意義を見だし、主体的な学びが実現するように見通しをもった学習活動を通して、学習内容が生活に役に立つという実感をもたせる指導を行う。
- ⑥自らの考えをもち、表現する力を育むための「学び合い活動」の充実と、対話的な活動に不十分さがある。
- ⑦四分位層に関する低学力の生徒の割合が県平均を超えている。
- ⑧9ヶ年を通した基本的な学習習慣の定着に不十分さがある。